



中学生職場体験

も く じ

- p. 2 ACP PRP療法とは？
- p. 4 中学生職場体験
- p. 5 転倒・転落対策チーム発足にあたって
- p. 6 公立藤田総合病院登録医師のご案内 その9
第24回オレンジカフェのお知らせ
第72回元気セミナーのお知らせ
編集後記

公立
藤田総合
病院

理念・基本方針

私たちは、患者さん中心の医療を行います

- ◆私たちは、地域社会との連携を図りながら、地域の人々の医療・保健・福祉の向上に貢献します。
- ◆私たちは、医療水準の向上に努め、患者さんに良質で安心できる医療を提供します。
- ◆私たちは、健全な経営に務め、活力に満ちた働きがいのある病院を目指します。

●紙面に掲載されている内容・写真等を目的外で使用したり、複製・印刷する事を禁止します。

入院なし、日帰りで受けられる再生医療 ACP PRP療法とは？



PRP療法（再生医療）

スポーツ膝関節センターでは、変形性膝関節症やスポーツ外傷・障害の治療として、PRP（多血小板血漿）療法を始めました。再生医療という治療法です。患者さんの血液から抽出した「多血小板血漿（PRP）」を、患部に注射し、痛んだ組織の修復や炎症の症状軽減を促進する効果が期待されます。

なお、PRP療法は、保険適用外（自由診療）です。そのため、費用は全額自己負担となります。

〈対象疾患〉

変形性関節症、関節内軟骨損傷、半月板損傷、関節内靭帯損傷、関節内組織損傷、関節炎筋肉、腱、靭帯、筋膜の損傷及び慢性炎症（関節外の軟部組織）

〈PRP（多血小板血漿）療法とは〉

PRP療法とは日本語で多血小板血漿療法と言い、血液中の成分「血小板」の機能を利用した再生医療の一つです。血小板に豊富に含まれる成長因子などのタンパク質が組織の治癒を促進する働きがあることが知られています。PRP療法では、血液中から血小板を含む血液成分を濃縮し、痛みのある関節に注射することで、血小板が放出する成長因子により関節内の組織の修復能力を一時的に高め、痛みや関節機能の改善が期待されています。

〈治療の特徴〉

- 患者さんの血液を材料とした治療のため、アレルギー反応や拒否反応などのリスクが少ない治療法です。
- 継続利用による重篤な副作用のリスクは少ないと考えられているため、長期間に渡り使用することが可能な治療です。
- 採血した当日に短時間で治療を受けることができる治療です。

〈関節の痛みと変形性膝関節症〉

関節が痛くなる病気やその原因も様々ですが、痛みの訴えが一番多い関節は膝です。そして、膝関節の痛みの原因で最も一般的なものは変形性膝関節症ということが知られています。

変形性膝関節症は、膝のクッションとして働いている軟骨が加齢にともないすり減り、炎症が起きたり関節が変形したりして痛みや腫れを生じる病気です。

外傷や感染等明らかな原因があっても発症する場合がありますが、多くは加齢を主な原因として、肥満や使いすぎ、遺伝的な背景等複数の原因が積み重なって発症します。

発症は50歳～60歳くらいから増え始め、女性のほうが男性よりなりやすく、国内では、約1,000万人の方が変形性膝関節症に悩まされていると言われています。

PRP療法は変形性膝関節症で起きている関節炎を抑制し、病態の進行を抑制することが期待されています。そのため、手術を希望しない患者さん、若すぎて手術の適応とならない患者さんの新たな治療選択肢となってきています。

〈費用について〉

本治療はすべて自由診療であり、健康保険を使用することはできません。

PRP 1回（1部位） 30,000円（税込）

※採血を開始してからキャンセルされた場合は、費用の全額をご負担いただきます。

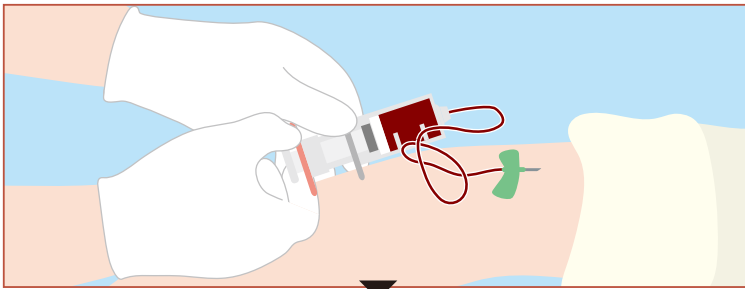


ACP PRP療法の治療の流れと作用

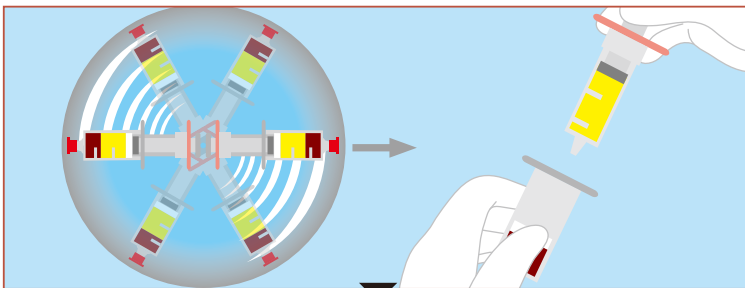
短時間で負担の少ない治療

治療は3つのステップで行われ、採血から治療提供までわずか15分程度*でおこなわれます。少量(15ml)の採血で治療を受けることができる負担の少ない治療です。

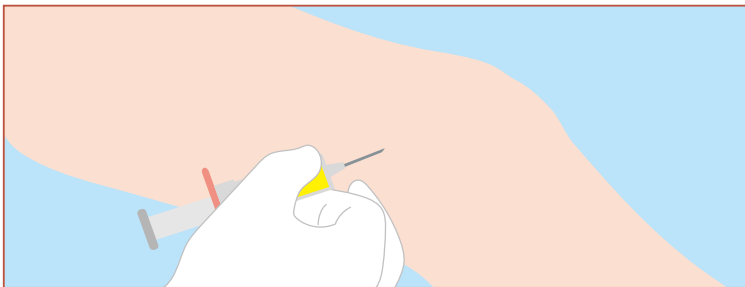
STEP1 患者様の腕から少量採血(15ml)します



STEP2 血液を遠心分離し、赤血球と白血球からPRPを分離、抽出します



STEP3 PRPを患部に注射します



全3 STEPで
15分程度*

※主治医の判断による

06 | 変形性膝関節症とACP PRP療法による治療

〈その他〉

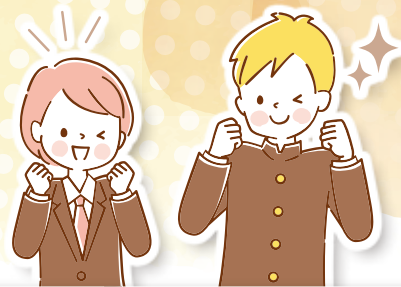
詳しい情報は病院のホームページにも掲載しておりますので、併せてご覧下さい。

〈お問い合わせ先〉

公立藤田総合病院 スポーツ・膝関節センター TEL：024-585-2121（代表）

※連絡先へ電話をかけると代表番号につながりますので、スポーツ膝関節センターへつないでいただくようお願いいたします。

中学生 職場体験



当院では、将来医療職を志す生徒の皆さんの職場体験を積極的に受け入れております。

今年も国見町立県北中学校・桑折町立醸芳中学校・伊達市立伊達中学校の生徒さんが職場体験に訪れてくださいました。

体験は病棟や手術室のほか各部署を回り、実際に病院での現場を体験することで医療の重要性や大変さに理解を深め、より医療職への感心を高めることができたようです。初めて体験する医療職の現場に、小さな目がキラキラと輝いているのがとても印象的でした。

数年後には、生徒さんたちが当院で働いてくれる日を楽しみにしております。



〈参加した学生さんの感想〉

- 職場体験後は色々なお仕事がわかり看護部、薬剤部など沢山興味があったのもっと詳しく調べたい。
- 病気に合わせて薬を探したり、合成したりする薬剤師、入院している患者さんの3食をつくり栄養を考える栄養士、会計の計算、退院するとき色々手配する地域連携の人たちなど沢山の人たちに支えられていることが分かった。
- 1つの科でもいろんな職種の人が働いていることが分かった。
- 色々な職種の方が病院内で仕事をしていることを初めて知った。多くの人が携わって医療が成り立っているのだと感じた。
- 薬剤師は、飲んでる薬を調べて手術や飲み合わせに影響がないか調べていることがわかった。
- 手術室やCT、MRIなどみてすごく大きい検査機器やロボットなどがありびっくりした。
- リハビリは同じ場所を怪我している人でも、怪我をする前の体力などを元にしてひとりひとり違うリハビリメニューを考えていて大変そうだけどやりがいを感じる場所だと思った。
- 患者さんの声を聞き、状態にあった対応をする事が大切だと感じた。
- 患者さんとのコミュニケーションをととても大事にしているんだと肌で感じる事ができた。



転倒・転落対策チーム発足にあたって

転倒・転落対策チーム 医師 後藤 拓也

人は必ず転倒・転落を経験します。65歳以上の不慮の事故による死因の原因の第1位は、転倒・転落です。厚生労働省の報告では、転倒・転落は交通事故の4倍以上とされています。転倒・転落による骨折や、転倒を恐れて歩かなくなることもあります。そのことが廃用（過度な安静が長時間続くことで活動性が低下し、筋力低下や心肺機能の低下、うつ状態など様々な状態）の進行を助長させるというように、生活を一変させることとなります。

転倒は、元々の足腰、基礎疾患、認知症、内服薬等の内的要因に加えて、入院や施設利用など不慣れな環境、段差、履物などの外的要因で発生します。そのすべてに対策をしても、転倒・転落をゼロにすることは不可能です。本人や家族（介護者）、医療・介護に関わる人は、誰もが転倒・転落する可能性を理解し、危険性を評価する必要があります。その上で、転ばないように活動を制限するのではなく、本人らしく生活できるように備え、支えていく必要があります。このように、転倒・転落対策は、地域全体で取り組む課題です。病院や介護・福祉施設、在宅が情報を共有し、手を取り合って考えていくことも大切であると考えます。

入院する患者さんは、健康上の問題に加えて、転倒・転落の内的要因を持っていることが多いです。入院による環境の変化や医療従事者への遠慮といったようなことも誘因になります。当院においては、転倒・転落の発生率は全国平均に比べてやや高い現状です。骨折に至るケースもあります。そのため、当院では、令和6年5月より「転倒・転落対策チーム」を発足しました。患者さんの転倒・転落による有害事象（骨折やけが）の発生をゼロにしていくことを目標としています。この転倒・転落対策チームは、医師である私の他に、看護師・作業療法士・理学療法士・薬剤師・栄養士・放射線技師・臨床工学技士・事務スタッフの多職種で構成しています。それぞれの専門性を発揮しながら、組織的に転倒・転落対策を強化していきます。当院で発生した転倒・転落の分析や対策の評価、新たな転倒・転落対策の仕組み作りの活動を行います。また、病院で起こっている転倒・転落について地域に発信していくことや転倒・転落対策についてみなさんと一緒に学んでいくことも大切にしていきたいと考えます。転倒・転落対策を通して、患者さんだけでなく地域で暮らす方々が、少しでも安全で安心した生活を過ごせるように取り組んでいきたいと考えています。



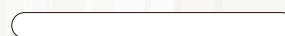
新たな転倒・転落対策用紙
入院患者さんのベッドボードに掲示



当院では、転倒・転落の危険性を分類し、2色のリストバンドに分けて注意喚起しています。

① 転倒転落を起こしやすい患者さん
緑色のリストバンド

② 転倒転落の可能性のある患者さん
白色のリストバンド



公立藤田総合病院 登録医師のご案内 その9

医療法人天藤会 遠藤内科医院

◎診療科：内科、消化器内科、心臓内科



高野 俊夫先生

患者さんのハピネスづくりのお役に立てるよう、職員全員で取り組んでいます。

【略歴】 昭和55年3月 福島県立医科大学卒業
 昭和55年4月 福島県立医科大学神経精神科学講座入局
 昭和60年6月 福島県立医科大学内科学第一講座入局
 昭和63年4月 掛田中央内科勤務
 平成2年9月 医療法人掛田中央内科開設 院長就任
 令和1年10月 医療法人掛田中央内科退職
 令和1年11月 社会福祉法人嘉啓会 業務執行理事就任
 令和1年5月 遠藤内科医院開設 院長就任
 令和4年11月 医療法人天藤会 遠藤内科医院開設 理事長就任

【休診日】 毎週土曜日の午後・日曜・祝祭日・年末年始

【病床数】 無床



【所在地】
 伊達郡桑折町字陣屋1-6
 【電話番号】
 024-582-6788
 【FAX番号】
 024-582-6799



診療時間	月	火	水	木	金	土	日
9:00~12:00	○	○	○	○	○	○	○
12:00~16:30	訪問診療						休
16:30~17:30	○	○	○	○	○	休	休

※木曜日は午後2:00~5:30まで循環器医師が診療します。

第24回 オレンジカフェ

オレンジカフェとは？

認知症に関する学びの場や専門職員との出会いの場を目的とした、どなたでも参加できる場所です。何でも話せる息抜きの場や情報交換の場として、是非お気軽にご参加下さい♪

※カフェタイムは、当面の間お休みとなります。

日時：令和6年9月18日(水) 10時~11時

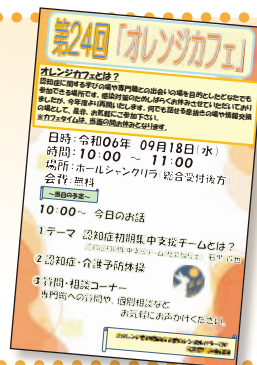
場所：ホールシャングリラ（総合受付後方）

会費：無料

予定：①認知症初期集中支援チームとは？

②認知症・介護予防体操

③質問・相談コーナー



第72回 元気セミナー

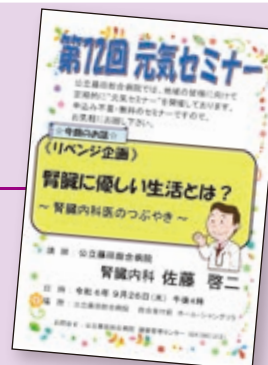
今回の
お話し

腎臓に優しい生活とは？ ~腎臓内科医のつぶやき~

講師：公立藤田総合病院 腎臓内科 佐藤 啓二

日時：令和6年9月26日(木) 午後4時

場所：公立藤田総合病院 総合受付前 ホール・シャングリラ



編集
後記

すでに猛暑が続いておりますがみなさまいかがお過ごしでしょうか。今年はパリオリンピックが開催され、たくさんの選手が活躍しました。さて、今回の内容は、中学生の職場体験の特集でした。多くの学生さんが当院に来て下さり、接して頂いた患者さんも楽しそうにお話しされていました。将来ぜひ当院に来て下さいね！みなさんと働けるのを楽しみにしています♪